地域シンポジウム実例集

目次

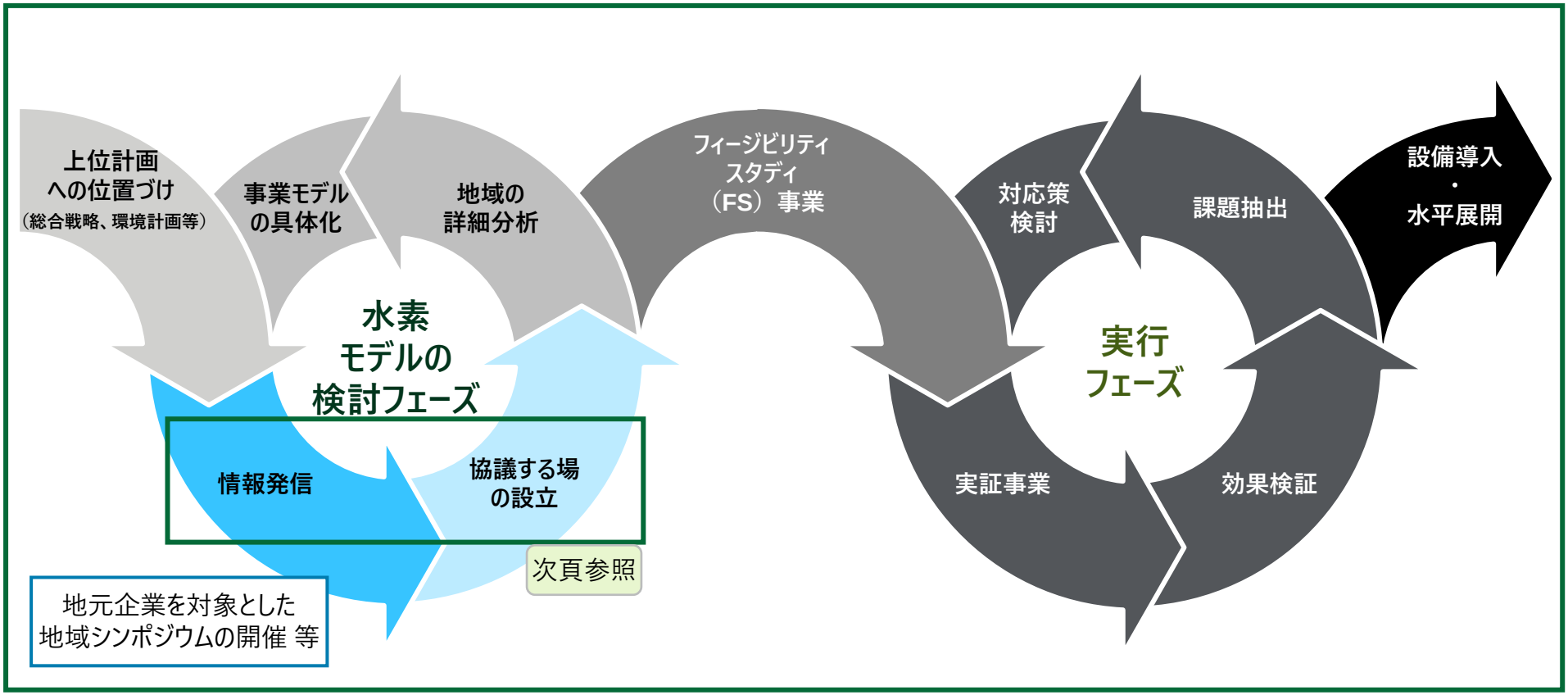
地域シンポジウムの開催意義	3
開催事例	7

地域シンポジウムの開催意義

【水素普及に向けた流れ_全体像】

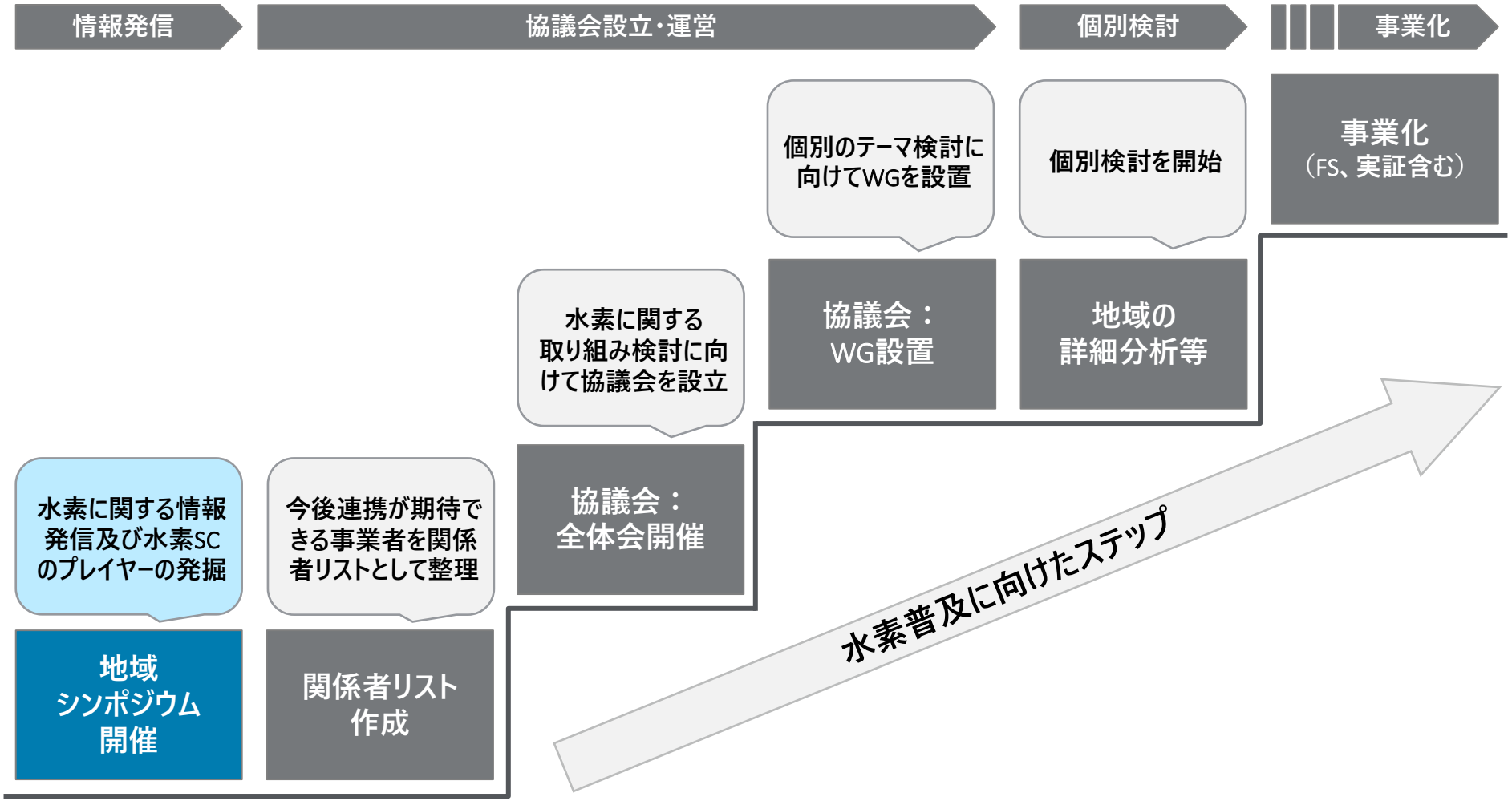
地域での水素普及に向けては、地方公共団体が中心となって検討を進めることが重要であり、検討フェーズでは情報発信による機運醸成、特に地元企業の巻き込みが肝要

地方公共団体における水素普及に向けた流れ



【情報発信・協議する場の設立_詳細】

水素事業実施に向けた初期段階として、地域シンポジウムを開催し、水素サプライチェーンへの参画企業を発掘することが重要



【地域シンポジウムの効果】

地域シンポジウムには、ネットワークづくりや、企業からの意見の誘発、地方公共団体の意気込みの発信等の効果が期待される

地域シンポジウム開催後に期待する効果

①ネットワークづくり

事業実施に向けて重要となる、地方公共団体と企業や企業同士のネットワークづくりを効率的に行うことが可能

②企業からの意見の誘発

地域シンポジウムにおいて、他の参加企業からの意見を聞くことで、新たな発想や発見が生まれる可能性がある

③地方公共団体の意気込みの発信

「地域シンポジウム」という形でイベントを開催することで、地方公共団体の意気込みが企業へ伝わりやすい

開催事例

事例①「地域水素事業シンポジウムin岡崎市」（1/2）

岡崎市にて令和4年1月25日に地域水素事業シンポジウムを開催

日時	■ 2022年1月25日（火）14：00～16：30
開催方法	■ オンライン*（Zoom）
開催の狙い	■ 岡崎市では、2050年のゼロカーボンシティ実現に向け、地域特性を活かした水素SC形成を検討 ■ 水素SC形成に向けて、地元企業を巻き込んで検討を進めていきたいと考えている
プログラム	■ 開会 ➢ 岡崎市長、環境省 ■ 講演パート（前半約90分） ➢ 動画上映 ➢ 講演1（環境省） ➢ 講演2（愛知県） ➢ 講演3（岡崎市） ➢ 講演4（企業） ■ 意見交換パート（後半約40分） ➢ 5グループで意見交換 ■ 閉会

参加者	■ 講演パート：53団体 ■ 意見交換パート：46団体 （うちオブザーバーは23団体）

参加者募集の工夫

- ウェブサイトにて発信
- 地元ケーブルテレビでの発信
- 岡崎商工会議所との連携

※2022年1月17日版

次世代エネルギーとして注目されている『**水素**』に関する動向や施策をご紹介！
脱炭素経営の一環として、また、**新たな事業展開**、**既存事業の応用発展など**も期待できます！

地域水素事業シンポジウム in 岡崎市

- 岡崎市では、地域主導による脱炭素社会の構築に向けて、水素社会サプライチェーン（SC）の形成を目的としたシンポジウムを開催いたします。
- 脱炭素社会・水素社会を取り巻く環境、岡崎市にて想定されるSC、どういった形でSCへ参画できるかなどをテーマに開催します。岡崎市を始め近隣地域で活動されている事業者の皆様、ぜひ、ご参加ください。

日　時　2022年1月25日(火) 14時～16時30分頃

開催方法　オンライン ※新型コロナウイルスの感染拡大によりオンラインのみといたしました。

対　象　事業者の皆様　※水素や脱炭素経営に興味関心がある、新たな事業展開を考えたいなど、まずはお気軽にご参加ください。

内　容
■ **講演**
➢ 水素社会の実現に向けた取組（国、県、市）
➢ 水素ＳＣとは　等
■ **テーマ別分科会**
➢ ＳＣの一連の流れのうち、どの仕事(役割)に興味があるか、可能性があるか、意見交換

申込方法　申込フォームURLかＱＲコードからどうぞ
https://forms.office.com/r/zSdXTz0me
お申込期限 1月20日(木)19時
申込フォーム

申込問合せ
申込みに関するご質問などは、こちらへお願いします。
h2-regional-symposium@tohmatsu.co.jp

シンポジウムに関するお問合せ先
岡崎市環境部ゼロカーボンシティ推進室
TEL　0564－23－6401
FAX　0564－23－6536
MAIL　ondankataisaku@city.okazaki.lg.jp

主催：環境省・岡崎市　後援：西三河首長誓約推進協議会・岡崎市地球温暖化防止隊

＊対面とオンラインのハイブリッド開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全面オンラインに切り替え

事例①「地域水素事業シンポジウムin岡崎市」（2/2）

意見交換パートの中で、今後の水素に関する取り組み検討につながる議論が行われた

当日の意見交換パート

小グループに分かれ意見交換を実施。参加企業からは、地域特性を活かした水素SCに関する意見交換が行われ、今後の事業化に向けた連携を検討する端緒となった

■ 岡崎市の特性を活かした水素SC
- ➢ 工業団地の活用、ごみや廃プラからの水素製造、新電力と連携した再エネ余剰活用

■ 水素SC形成に向けたハードル
- ➢ 経済性の確保、社会受容性の獲得、技術開発、法規対応

意見交換パート運営の工夫

- 事前に登録いただいた「水素事業への関与度」や「業種」を用いて、グループ分けを実施
- 事務局がファシリテーターとして関与し、「本日ご意見いただきたいポイント」「水素サプライチェーンの概要」を提示し、議論を促進

アンケート結果サマリ

■ 内容、運営ともに満足度は高い
- ➢ 内容に関する満足度
  講演 4.2/5.0、意見交換 3.2/5.0
- ➢ 運営に関する満足度 3.6/5.0
- ➢ 「取り組みが網羅的に発信されており理解が深まった」「意見交換は工夫が必要」「継続開催を希望」

開催後の展開(予定)

ゼロカーボンシティに向けた取り組み

■ 意見交換パートで出たアイディアの1つである工業団地における水素の活用を検討している

■ 再エネの活用も検討している
- ➢ 太陽光発電や蓄電池を最大限導入するとともに、木質バイオマス発電や既存のごみ発電を活用することで、カーボンニュートラルの達成を目指す

事例②「水素関連事業地域シンポジウムin岩手県」（1/2）

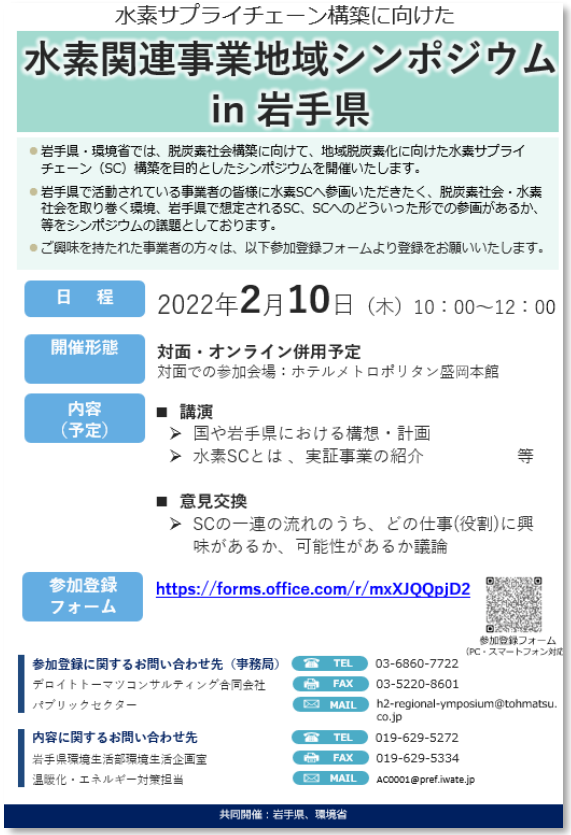
岩手県にて令和4年2月10日に水素関連事業地域シンポジウムを開催

日時	■ 2022年2月10日（木）10：00～12：00
開催方法	■ オンライン*（Zoom）
開催の狙い	■ 岩手県では、低炭素で持続可能な社会の実現に向けて、再エネ由来水素利活用を検討している ■ 岩手県にて活動している企業の水素SCへの参画を促したいと考えている
プログラム	■ 開会 ➢ 岩手県副知事、環境省 ■ 講演パート（前半約90分） ➢ 動画上映 ➢ 講演1（環境省） ➢ 講演2（岩手県） ➢ 講演3（企業） ■ 意見交換パート（後半約40分） ➢ 2グループで意見交換 ■ 閉会

参加者	■ 講演パート：28団体 ■ 意見交換パート：12団体

参加者募集の工夫

- 県内企業に対して、シンポジウム開催案内を発送



水素サプライチェーン構築に向けた

水素関連事業地域シンポジウム in 岩手県

- 岩手県・環境省では、脱炭素社会構築に向けて、地域脱炭素化に向けた水素サプライチェーン（SC）構築を目的としたシンポジウムを開催いたします。
- 岩手県で活動されている事業者の皆様に水素SCへ参画いただきたく、脱炭素社会・水素社会を取り巻く環境、岩手県で想定されるSC、SCへのどういった形での参画があるか、等をシンポジウムの議題としております。
- ご興味を持たれた事業者の方々は、以下参加登録フォームより登録をお願いいたします。

日　程　2022年2月10日（木）10：00～12：00

開催形態　対面・オンライン併用予定
対面での参加会場：ホテルメトロポリタン盛岡本館

内容（予定）
■ 講演
➢ 国や岩手県における構想・計画
➢ 水素SCとは、実証事業の紹介　等
■ 意見交換
➢ SCの一連の流れのうち、どの仕事(役割)に興味があるか、可能性があるか議論

参加登録フォーム　https://forms.office.com/r/mxXJQQpjD2
参加登録フォーム（PC・スマートフォン対応）

参加登録に関するお問い合わせ先（事務局）
デロイトトーマツコンサルティング合同会社
パブリックセクター
TEL 03-6860-7722
FAX 03-5220-8601
MAIL h2-regional-ymposium@tohmatsu.co.jp

内容に関するお問い合わせ先
岩手県環境生活部環境生活企画室
温暖化・エネルギー対策担当
TEL 019-629-5272
FAX 019-629-5334
MAIL AC0001@pref.iwate.jp

共同開催：岩手県、環境省

* 対面とオンラインのハイブリッド開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全面オンラインに切り替え

事例②「水素関連事業地域シンポジウムin岩手県」（2/2）

意見交換パートの中で、地域特性を活かした水素SCのあり方について議論が行われた

当日の意見交換パート

小グループに分かれ、岩手県における地域特性を活かした水素SCの絵姿や参加企業の関与等に関する意見交換を実施した

■ 岩手県の特性を活かした水素SC
- 高いポテンシャルを持つ再生可能エネルギー(風力・波力等)の活用
- 農林水産分野や廃プラスチック等の未利用資源の活用、既存LPガスインフラの活用

■ 水素SC形成に向けたハードル
- 経済性の確保、社会受容性の獲得、企業・地方公共団体・国の連携

意見交換パート運営の工夫

- 事前に登録いただいた「水素事業への関与度」や「業種」を用いて、グループ分けを実施
- 事務局がファシリテーターとして関与し、「本日ご意見いただきたいポイント」「水素サプライチェーンの概要」「岩手県内の幹線道路の地図」等を提示し、議論を促進

アンケート結果サマリ

■ 内容、運営ともに満足度は高い
- 内容に関する満足度

  講演 3.8/5.0、意見交換 3.5/5.0
- 運営に関する満足度 3.8/5.0
- 「取り組みが網羅的、また事例も交えて発信されており理解が深まった」「継続開催を希望」

開催後の展開(予定)

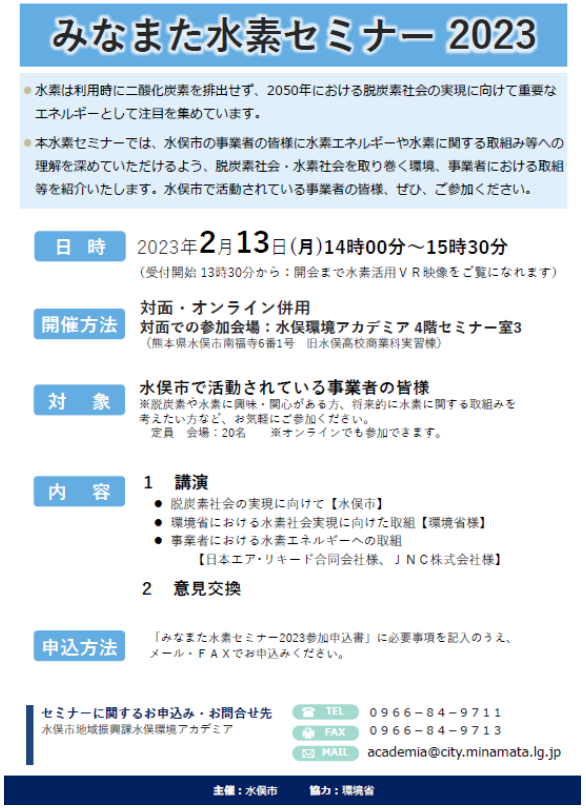
■ 新たに水素セミナーの開催を予定している
- 県内企業や市町村に、水素SC形成に向けた取り組みに関する具体的なイメージを深めてもらうために、水素セミナーを開催する
- 水素セミナーでは、水素供給事業者(製造)及び水素需要設備開発事業者(モビリティ)による取り組みや関連分野における最新動向の紹介を想定している

事例③「みなまた水素セミナー」（1/2）
水俣市にて令和5年2月13日に水素セミナーを開催

日時	■ 2023年2月13日（月）14：00～15：50
開催方法	■ 対面及びオンラインの併用
開催の狙い	■ 水俣市では、水俣水素研究会を設立し、水素に関する取り組みの検討を進めようとしている ■ 水俣市の事業者に水素に関する取り組み等への理解を深めていただき、今後の水素SC構築につなげる
プログラム	■ 開会 ➢ 水俣市、環境省 ■ 講演パート（前半約90分） ➢ 講演1（水俣市） ➢ 講演2*（環境省） ➢ 講演3（企業1） ➢ 講演4（企業2） ■ 意見交換パート（後半約20分） ■ 閉会

参加者	■ 現地参加：18名 ■ Web参加：9名

参加者募集の工夫
- ウェブサイトにて発信
- 地元企業に郵送及びメールにて案内



みなまた水素セミナー 2023

- 水素は利用時に二酸化炭素を排出せず、2050年における脱炭素社会の実現に向けて重要なエネルギーとして注目を集めています。
- 本水素セミナーでは、水俣市の事業者の皆様に水素エネルギーや水素に関する取組み等への理解を深めていただけるよう、脱炭素社会・水素社会を取り巻く環境、事業者における取組等を紹介いたします。水俣市で活動されている事業者の皆様、ぜひ、ご参加ください。

日 時　2023年2月13日(月)14時00分～15時30分
（受付開始 13時30分から：開会まで水素活用ＶＲ映像をご覧になれます）

開催方法　対面・オンライン併用
対面での参加会場：水俣環境アカデミア 4階セミナー室3
（熊本県水俣市南福寺6番1号　旧水俣高校商業科実習棟）

対 象　水俣市で活動されている事業者の皆様
※脱炭素や水素に興味・関心がある方、将来的に水素に関する取組みを考えたい方など、お気軽にご参加ください。
定員　会場：20名　※オンラインでも参加できます。

内 容
1　講演
- 脱炭素社会の実現に向けて【水俣市】
- 環境省における水素社会実現に向けた取組【環境省様】
- 事業者における水素エネルギーへの取組
【日本エア・リキード合同会社様、ＪＮＣ株式会社様】

2　意見交換

申込方法　「みなまた水素セミナー2023参加申込書」に必要事項を記入のうえ、メール・ＦＡＸでお申込みください。

セミナーに関するお申込み・お問合せ先
水俣市地域振興課水俣環境アカデミア
TEL　０９６６－８４－９７１１
FAX　０９６６－８４－９７１３
MAIL　academia@city.minamata.lg.jp

主催：水俣市　協力：環境省

*講演及び動画上映を実施

事例③「みなまた水素セミナー」（2/2）

意見交換パートの中で、水素の課題や水俣市における取り組みの実施に向けた議論が行われた

当日の意見交換パート

■ 水素に関する課題について
- ➢ 水素の取扱いに係る安全性、法規対応、経済性

■ 水俣市における水素の取り組みについて
- ➢ 水素の製造可能性や事業成立に向けた水素需要
- ➢ エネルギーの地産地消実現に向けたEMS活用可能性

意見交換パート運営の工夫

- 参加申込時に質問内容を記載いただき、質問への対応を事前に準備
- 会場のレイアウトを円形にし、発言をしやすいようにすることで、議論を促進

アンケート結果サマリ

■ 内容、運営ともに満足度は高い
- ➢ 内容に関する満足度
  講演 4.4/5.0、意見交換 4.0/5.0
- ➢ 運営に関する満足度 4.2/5.0
- ➢ 「水素について勉強になった」「継続開催を希望」「水俣市における水素PJの実施を期待している」

開催後の展開(予定)

■ 事業化(FS、実証含む)に向けて、まずは事業性を加味した水素SCの検討を進める
- ➢ 水素製造に向けた電力の調達可能性について検討する
- ➢ 水俣市において水素事業を成立させるために必要な水素需要を検討する
- ➢ 水素SCへの関わり方を含めて、事業者との連携を進める